

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月18日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530353

研究課題名（和文）第8代エルギン伯爵日英条約とスコットランド人の日本でのディアスポラ研究

研究課題名（英文）The work of Lord 8<sup>th</sup> Elgin signed the Anglo-Japanese Treaty in 1858 And Scottish Diaspora in Japan

研究代表者

北 政巳 (KITA MASAMI)

創価大学・経済学部・教授

研究者番号：90063924

研究成果の概要（和文）：幕末における日本対西欧諸国、特にイギリスとの関係を検証し、その中でも中国のアロー号事件処理に英国から派遣され、ペリーの日米通商条約の噂を聞いて来日し日英通商条約を結んだ第8代エルギン伯爵を中心にスコットランドからアジア、日本へ到来したスコットランド人の移民活動の全体像の解明に成功した。あとは各地への分散していく過程への分析に入る。

研究成果の概要（英文） The activity of 8<sup>th</sup> Lord Elgin dispatched by British government to Asia to cease the 2<sup>nd</sup> Opium war (Arrow Incident) and who also visited Japan to sign the Anglo-Japanese treaty in 1858 was very cleared by this research. I have published the book on 8<sup>th</sup> Elgin in Japanese and presented the five academic papers in English related with this research

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：スコットランド、幕末明治、ディアスポラ（離散共同体）、大英帝国、エルギン伯爵、オリファント、英国移民、アジア近代史

### 1. 研究開始当初の背景

従来、わが国では幕末の西欧諸国との開国をめぐる過程について、最初に通商協定を締結したアメリカ、また封建時代から通商関係を確立・維持していたオランダに比して、他国（イギリス・ロシア・フランス・ドイツ）の情報は我が国文献には乏しく、本格的な研究はなされてこなかった。1858年の神奈川の安政5条約を見ても、アメリカ、オランダについてロシア、イギリス、フランスが条約を調印した。しかも19世紀中葉から後半に

かけての世界ではイギリスとフランスが世界各地での植民地化を進め最もアグレッシブにアジアにも進出していた。しかし当時のイギリスとフランスの対日折衝については、これまた我が国に文献はなく未開拓な研究分野と放置されてきた。歴史家の多くが、その後の日英関係については研究を残しているが、誰がどのように日英通商条約を結んだかについては十分な関心が払われてきたとは言えない。その理由のひとつは、イギリスといっても、それを担ったのがイングランド

人 (English) ではなく、第8代エルギン伯爵に代表されるスコットランド人 (Scottish) であったこと、日英通商条約が安政5条約で4番目であったことも日本人から観れば一部の識者を除いて、イギリスがどれほどアジア・極東に関心を持ち日本進出に興味を示していたかも理解されなかった。そのため日英通商条約を結んだイギリス側の当事者の第8代エルギン伯爵についても、アメリカのペリーやハリスに比して全く知られていなかった。

しかしアメリカの当事者ハリスが臨時の外交職であったのに対して、第8代エルギン伯爵は、既に大英帝国 (British Empire) を代表し、ジャマイカ提督、カナダ提督を経験していた。そして第2次アヘン戦争と呼ばれるアロー号事件が勃発した時に特命全権大使として中国に派遣され、日本接近を計るアメリカの動きを見て日本にも立ち寄り条約を結ぶように示唆されて来たが、わずかな期間での滞りで中国に戻ったため、我が国の資料にはほとんど残らなかった。

## 2. 研究の目的

幕末・明治の日本について最も詳細にして精緻な報告をのこした英国外交官アーネスト・サトウが自伝の冒頭に、自らが日本に関心を持ったのは第8代エルギン伯爵の秘書でスコットランド人のオリファントが書いた『第8代エルギン遣唐日使』をロンドン大学在学中に読んだことによると書き残している。その意味では本研究を通じて、第8代エルギン伯爵の世界的な活動と日本との関係、またスコットランド人が数多く到来し、長崎、横浜、函館さらに神戸の外国人居留地で活躍する歴史解明の序とすることを目的とし、第8代エルギン伯爵と彼の一族が大英帝国の繁栄に果たした役割を解明し公表することとした。

イギリス自由貿易主義の旗の下、東インド会社が1813年の対インド貿易の独占権撤廃に続き、1833年の対中国貿易独占権撤廃を実施した。その背景には、長年イングランドの属領的立場にあったスコットランドが産業革命を通じて特にグラスゴウとクライド河流域がイギリス随一の重工業 (鉄工・機械・鉄道) となる時代を迎え、スコットランド伝統の実務教育を体得したスコットランド人は技師・宣教師・教師・商人として海外、特にインドから東南アジア、中国に向けての活躍が展開された。そこには外交官に転身したスコットランド貴族が、多くの同胞を誘引・紹介したことが注目される。

第8代エルギン伯爵は、アロー号事件で中国に派遣される以前に、既にジャマイカ提督、

さらにカナダ総督の経験がある大英帝国を代表する外交官であった。事実、カナダでは英語・フランス語圏の争い、また上部カナダと下部カナダとの争いのなかで、全部の意見を糾合しカナダの統一を果たす基を作った。また当時アメリカの北部が経済力を増し南部を従えつつあり、その経済力の驚愕した第8代エルギン伯爵はヴィクトリア女王にカナダを守るために自治国提案を行い同国が英連邦最初の自治国になった。それ故に第8代エルギン伯爵を「カナダ建国の父」と賞賛する歴史家もいる。興味深いのはカナダ人からすれば英国に戻った第8代エルギン伯爵が、その後中国・日本・インドで活躍したことは知られていなかった。

つまり第8代エルギン伯爵の日本における活動は未解明の研究対象であった。2006年にイギリスで彼の末裔に出会い、そこから研究に着手した。それまでのスコットランド研究を通じて、世界の大英帝国のフロンティアには常にスコットランド人技師・商人・宣教師がいたことを解明してきたが、そこにスコットランド人外交官ネットワークを見出した。事実、第8代エルギン伯爵はイートン校またオクスフォード大学でエディンバラ出身のグラッドストーンと同級生であり、彼らのグループにはヴィクトリア時代の大英帝国の繁栄を築いた人脈が存在した。

こうした第8代エルギン伯爵及びエルギン伯爵一族を研究することにより、日本開国をめぐるイギリスの動向を解明すること、その後の日本におけるスコットランド人の動きを明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

スコットランドの残続するエルギン伯爵の後継者とのコンタクトを通じて資料を集め、またグラスゴウ大学、エディンバラ大学等のスコットランド諸大学の文献調査を通じて、幕末明治に日本へ来日したスコットランド人の動きを離散共同体運動として把握した。

さらに第8代エルギン伯爵の秘書であり、『第8代エルギン遣唐日使』を著述したオリファントにも注目し、彼を通じて日本とスコットランドとの関係も解明した。

## 4. 研究成果

第8代エルギン伯爵と彼の秘書オリファントが1858年に見た日本社会は、まさに江戸幕府の最後の時代であった。250年にわたる徳川幕府の所謂「鎖国」社会の根底が動揺していた。世界的にはイギリス資本主義の自由貿易主義が世界市場を包摂し、陸上をつな

ぐ蒸気機関車、水上をつなぐ蒸気船、空間をつなぐ電信ネットワークにより「陽の沈まぬ大英帝国」を創りあげた。イギリスに続いて他の西欧諸国も原材料と商品市場を求めてアジアに到来し、特にアメリカはアジア各地に渡航できる基地として日本に強引なアプローチをし、日米修好通商条約が締結された。この画期的な知らせが西欧諸国に伝わると各国使節団が来日し、同様の条約を締結し、鎖国体制は事実上崩壊することになった。

しかしインド、中国等のアジア諸国が欧米列強の進出を受け、原材料確保と商品市場として植民地化されたのに対して、日本だけが植民地化を免れ、工業化に成功してアジア最初の近代国家となっていくた。日本は、鎖国と言われる制限貿易体制をひいて世界から孤立しながらも日本固有の「日進月歩」のダイナミズムを存続させていた。その日本の持つ将来性に、欧米列強は著しい関心を示した。この歴史プロセスが、まさに社会進化論の好例として西欧世界の注目を集めるが、その日本の変質・成長の端緒が 1858 年の第 8 代エルギン伯爵の訪日と日英通商条約締結にあった。

日本とのつながりは確かにイギリスよりもアメリカの方が早かったが、1864 年に南北戦争が起り国内問題に没頭せざるを得ず、アジアや日本への進出は足踏みをする。その間討幕運動を通じてイギリスが西欧諸国の中で対日外交の中心的役割を担うようになるが、その役割を推進したのが商人・教師・宣教師として来日した多くのスコットランド人であった。そのネットワークを構築することでイギリスの対日政策に大いに貢献するとともに、ネットワーク通じて日本人が世界に出て行った。

さらに秘書のオリファントは、イギリス日本大使館 1 等書記官として 1861 年に再来日するが、着任数週間後に起きた「東禅寺事件」で日本人暴徒の襲撃を受け負傷したため、帰国せざるを得なくなった。帰国後オリファントは、多くの人に極東の島国・日本を未来と希望の平和の国として講演旅行をした後、新聞に論評を載せ関心を集めた。このことも多くのスコットランド人が来日する契機となった。

幕末・明治に我が国に到来した長崎の外商グラバー、鉄道のもレル、工部大学校（東京大学の前身）のダイアー、日本銀行のシャンド、灯台建設のブラントン、日本郵船のブラウン等、何れもスコットランド出自である。またペリー提督や明治学院大学の創設者ヘボンがアメリカ人ではあるがスコットラン

ドからの移民の家系であった。彼らが来日したのも第 8 代エルギン伯爵が我が国と締結した通商条約が道を開き、スコットランド人のネットワークが構築されたために来日できたのである。

前回の科研費と今回の科研費で、19 世紀の世界に進出したイギリス人（スコットランド人）の移民活動を追求した。

最近スコットランドではエディンバラ大学にディアスポラ（離散共同体）研究センターができた。それは世界に散らばったスコットランド人の末裔が自分たちの祖先の活動を、従来の消極的なユダヤ人やアルメニア人に使われた異国で隔離された共同体ではなく、むしろ技術と教育で外国に進出し現地文化をも吸収してダイナミックな展開をとげる積極的な離散共同体の意味をみつける学問的傾向である。

本研究は第 8 代エルギン伯爵と彼の秘書オリファントを通じてスコットランドからアジア、日本へ到来したスコットランド人の移民活動の全体像を解明した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ① 北政巳、第 8 代エルギン伯爵と大英帝国の世界、創価経済学論集、査読無、第 39 巻 1-4 号、2010. 03、pp. 1-16.
- ② 北政巳、スコットランド第 7 代エルギン伯爵と大英帝国の時代、創価経済学論集、査読無、第 41 巻 1-4 号、2012. 03、pp. 23-35.
- ③ 北政巳、幕末日本と英国・スコットランド交流史—L. オリファント研究—、創価経済学論集、査読無、第 42 巻 1-4 号、2013. 03、pp. 1-12.

〔学会発表〕（計 6 件）

- ① KITA MASAMI: 'The Impact of Scottish Diaspora to Asia and the Unique response of Japanese in terms of Technology and Social Evolution in 19<sup>th</sup> Century', at 2011 Singapore Economic Review Conference 5<sup>th</sup> August 2011.,
- ② KITA MASAMI: 'Courier of Modern Technology in the Modern World, Contribution of Scottish Engineers' at

International Symposium on Colin Alexander McVean and His Achievements in Early Meiji Japan, *McVean Centenary Symposium* at Tokyo University, 18<sup>th</sup> February 2012

- ③ KITA MASAMI: 'The Impact of Western (British) Power on Asia in the 19<sup>th</sup> Century and the Response of China, Korea and Japan' in 2<sup>nd</sup> *Asia African World Historian Congress*, at EWHA Woman University of Korea on 28<sup>th</sup> April 2012
- ④ KITA MASAMI: 'The Competition of Steam Navigation Network in Asia in late 19<sup>th</sup> Century' in 20<sup>th</sup> *International Association of Historians in Asia* on 5<sup>th</sup> August, 2012
- ⑤ KITA MASAMI: 'Comparative View on Economic and Business Development between Scotland and Japan in Modern Times' in practical Wisdom for management from Japanese Spiritual and Philosophical Traditions of *The Academy of Business in Society*, at Soka University on 11<sup>th</sup> May 2013
- ⑥ 北政巳: ヴィクトリア期英帝国の繁栄とエルギン伯爵一族の歴史—スコットランド貴族の参画と貢献—、第62回日本西洋史学会大会近代史部会報告、京都大学、2013年5月12日

[図書] (計1件)

- ① 北政巳、エルギン伯爵とオリファントの観た幕末日本—スコットランド人ディアスポラの起点、揺籃社、2012.6、160p

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

北 政巳 (KITA MASAMI)  
創価大学・経済学部・教授  
研究者番号：90063924

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし